

2015 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録 6 限目》

《講座のメインテーマ》

防災の実践事例を学び、
地域力で生き延びる

記録：講座協力委員 紅林敏行

◆開催月日：2015年11月12日（木）13:30～17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆ 講座に参加しての総合評価と自分の目標を定める

・前半：『地域減災への取り組み』（自主防災活動の苦労話、情報収集の仕方）

講師：片山 晋 氏（防災を考える会・磯子代表、防災塾・だるま会員）

・後半：『学んだことを地域にどう生かすか、チーム別まとめと発表』

（あなたの地域や組織の現状と課題は？ 原因は？）



講座の様子



講師：片山 晋氏

前半 《危機管理の考え方》

1. 最悪の事態を想定する。
2. 疑わしくは行動する。
3. 空振りは許されるが見逃しはゆるされない。
4. 破綻より過剰対策

《災害発生直後の対応が肝要》

自治会活動の事例

- ・災害時基本行動マニュアル制定
- ・トランシーバ、バール、消火器の3点を【役員・班長・特別班員全員の自宅へ】配備
- ・防災家族カード（毎年更新）
- ・顔の見える関係づくり訓練（安否確認）
- ・安心安全ファイルの全戸配布（全員が支援者） 他

《災害時の情報伝達》

- ・まずは被害状況の収集
- ・情報伝達手段としてトランシーバを活用
- ・被災直後の最も重要な時間帯は近距離通信しかない
- ・情報伝達は、地域住民自ら行うのが有効

《J-DAG》発災直後の行動ゲーム

《地域の防災・減災の進め方》

- ステップ 1「我が家を安全にする」
- ステップ 2「近隣家族の把握」（向こう3軒両隣 5 軒から）
- ステップ 3「防災・減災のノウハウをまずは近隣家族へ波及させる」
- ステップ 4「自治会への働きかけ」
- ステップ 5「自治会として実施すべきこと」
- ステップ 6「進化と波及を目指して」

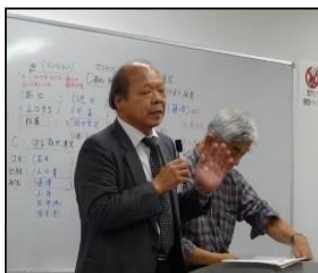


進行：山田美智子さん

「活動は苦ではなく楽しいことに！」「急ぎ過ぎず、ゆっくりと一歩を踏み出しましょう！」



後半の6チームからの発表



～講義を終えるにあたって～
荻本孝久防災塾だるま塾長

《後半：『学んだことを地域にどう生かすか』チーム発表から抜粋》

- ・『高齢化』、『中堅・若手の参加不足』、『自治会未加入』、『個人主義』等の現状。
- ・『通電火災防止』、『初期消火力向上』、『トランシーバ等の情報伝達改善』、『要支援者情報整備』、『顔の見える関係向上』等の取り組みが必要。
- ・地域の現状と課題に住民に気付いてもらう活動を粘り強く継続。
- ・行政に頼らず住民主導で取り組む。自治会、民生委員、自治体の連携も大事。
- ・防災活動等を牽引する地域のリーダーを養成していく。

《塾長から》

本講座で得たことを地元を持ち帰り、地元の方々と会話を続けていって下さい。
地域の防災・減災の活動は、出来ることから地道に積み重ねていくことが肝要。